

## 第1回 美瑛町再生可能エネルギー導入戦略検討委員会 意見交換会要旨

- 宿泊業、デパート、パチンコ業界、飲食店等を含め電灯の数が多すぎるのではないかと。
- 省エネに関して、積極的に参加・協調したいが、現実問題として単独事業所で、二酸化炭素の排出削減を実行するのは勇気が必要。二酸化炭素排出削減について、地方自治体、北海道及び国からももう少し具体的な指導、提案をいただきたい。
- 以前はエアコン不要だったが、今はエアコンが無いと客からクレームがくる。快適な空間を実現するためには二酸化炭素の排出が増える。
- 提供する料理少なくすることで、残飯を減らすことは現実的でない。残飯を再生可能エネルギーとして活用することが重要。
- 建設業は昨年4月1日から、「北海道インフラゼロカーボン試行工事」が新設された。
- ゼロカーボンについても、昨年から格付けを決める一つのポイントとして見られている。ゼロカーボンを宣言した業者は点数が加算される。
- 介護報酬については、公定価格で決められています。燃料費や事務経費といった物価が上がっているが、報酬には反映できない。
- 北瑛地区の事業所は2014年にオール電化にしたが、その年に電気料金が値上げとなり、見通しが甘かった。
- ブラックアウトの要因は、そもそも一つのところにエネルギー供給を頼っていたのが問題だったのではないかと。
- 介護は町内の送迎がメインとなるため、600kmしか走れない電気自動車でも問題ない。そのエネルギー源を自家供給することを検討したい。
- 老健と特養の食事は、5年前まで別々に作っていたが、セントラルキッチンに変更したことで、コスト削減や食材ロスを減らすことができた。
- 平成26年度からチップ生産を主力としている。平成27年度からは美瑛町の木質バイオマス施設へのチップ供給も行っている。美瑛町産のバイオマスを提供することにより、美瑛町に協力している。
- おが粉は畜産用が15000 m<sup>3</sup>、きのこ菌床用として4000 m<sup>3</sup>を生産している。事業は今のところ順調だが、近年大型バイオマス発電所の稼働が始まり、バイオマス原料の供給不足を懸念している。
- GHGやCO<sub>2</sub>を削減していくことは、企業だけでなく全人類の課題と認識している。近年、集中豪雨が発生することがあり、気候変動を懸念している。
- 野菜加工工場では冷凍野菜に加工するために多量のエネルギーを必要とするが、BCPの観点から考えると、電力一本やりでは非常に危ない。エネルギーミックスを考え方が重要。
- エネルギー効率のいい機械に入れ替えるのが最大の貢献と考える。ロボット化を進めていく必要があるものの、費用や時間もかかることから、短期的には人手に頼るこ

とになる。

- 100年先のことを今から考えるのかと言われてますが、今からやらないと間に合わない。民間企業としては経済合理性を重視する。エネルギーの価格競争力は重要。
- ゼロカーボンについて検討、アクションしている企業は、上場企業がスタートしていることが多い。
- 建設業においても入札工事に優遇のある「北海道ゼロカーボンチャレンジャー制度」等、ビジネスにおいても必要に迫られて対応される企業が多い。上川地域はやや札幌より遅いように思われる。
- 企業単体としては、新店舗への建て替えの際はZEBを検討している。
- 顧客へはSDGsや環境関連サービスの提供が、2022年12月までに890件程度、前年が108件でお客様の関心が伸びている。
- 美瑛町は盆地であることから風力発電は難しいのではないかと思います。木質バイオマスについては、チップは町のプールや交流館にも供給されている。家畜ふん尿バイオガスは個別の酪農家が設置。太陽光発電は取り組みやすいが、丘のまちとしての景観上の問題がある。
- 旭川信用金庫の取り組み事例として、2018年12月に新築した上富良野支店は地中熱利用した冷暖房ヒートポンプシステムで、2021年度は年間4.2tのCO2を削減した。
- このシステム導入にあたり、年間コストは約1億円かかっているが、半分は補助金。
- いくつかの地域で当信金店舗の建て替えを行っており、2020年度の西支店、2021年度の北星支店には床材に天然素材で耐久性があるセラミック製のOAフロアとした。また、40店舗中38店舗でLED化が完了。
- 環境エネルギー及び太陽光発電等の設備の新設を予定している事業者を支援する目的で「しろくまエネルギー」を取り扱っている。そのほか、事業者向けにSDGsのサポートローンも行っている。
- 3年前から学校内にクーラーを設置。今年で大体の学校に設置が終了、今年の暑さも快適に過ごせているが、電気代が凄いことになっているのではないかな。
- 美瑛町は1次が基幹。無駄を残さない、循環、耕畜連携という話を事業者に授業でもらった。メタンガスを抑える飼料なども使っている。地域学習のまとめで環境問題を行っている。
- 下川町では木質ボイラーでそれが出来た。その前とかも地中熱や太陽光に具体的に接していた。グローバルをローカルにすることで、自分事に出来るだろう、グローバルな学び。
- 森林吸収量(二酸化炭素排出量や差し引き後のことか)はどのくらいなのか。大自然の中で住んでいるので問題ないのでは、と思うが、どうなのか。ソーラーパネル付きで家を建てている人も多い。
- 雪の質が変わっていて、太陽光システムは大丈夫なのか、故障が多くなったとか将来

の廃棄などの問題は、という話が出ている。美瑛町におけるポテンシャルの問題、何  
が使えるのか、家庭の電力消費をどのようにして抑えるのか、というものを知りた  
い。

- 丘のまちと言われているが、沢のまちでもある。水田などの水路の水力も使えるので  
はないか。協議会内で美瑛に一番合うのは何かと話し合いをしたが、水力が出てき  
た。人口推移を移住者が支えているという稀有なまち、そこで環境は重要。介護や教  
育などトップを走っているものもある。そこに更に再エネで生活が豊かになる、とな  
ればどんなに素敵なまちになるんだろうと思った。
- 農業残さ等活用できるものは活用して循環型社会をつくれればさらに良いのでは。  
再エネが町全体でどうなるのか。町民意識は高いと思う。この町にあった、この町な  
らではの導入計画をつくれれば。
- 4～50年前の美瑛町はお盆過ぎると一気に冷えて、9月中旬には初霜、米を護るた  
めに夜タイヤを燃やしていた。3年に1度は冷害の影響を受けていた。
- 今は暑すぎて障害を受けている。米は美味しくなったがそれを通り越して熱害が起  
きている。大きく気象が変化している。品種改良が追い付いて行かない。
- 良いものから回収して、ということをしないとやっていけないという暑さの弊害が  
起きている。このままでは大変なことになる。人類がしっかりと考えてやる必要があ  
るのではないか。
- 乾燥機で灯油を使っているが、もみ殻を燃料とするためにもみ殻燻炭つくって灯油  
代替している。人材不足による機械化でエネルギーは多く使っているという反する  
状況、水素エンジンなどで解消できれば。時間はかかると思うので、直近では菜種油  
でのトラクター燃料化などできれば。
- 菜種油を作って燃料化できれば。コストがかかるという問題もある。あとは個人個人  
が二酸化炭素排出を減らそうとして行くのが大事ではないか。